

平成 23 年 5 月 11 日

緊急企画：災害後のトラウマにどう向き合うのか。
メンタルヘルスの国内外の専門家が福島大学で講演！

関西学院大学災害復興制度研究所主催、福島大学共催
東日本大震災被災者へのトラウマ・ケア：ヴァン・デア・コーク博士、
関西学院大学人間福祉学部池埜^{いけのさとし} 聡 教授（災害復興制度研究所研究員）を迎えて

1. 企画タイトル

東日本大震災被災者へのトラウマ・ケアにどう取り組みむのか：最新のトラウマ・アプローチと支援者協働による被災者の精神的支援方法を学ぶ

2. 趣旨と内容

2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災は、未曾有の国難とも言うべき甚大な被害を東北関東地方にもたらした。4 月 6 日現在、死者・行方不明者は 2 万 8 千人、遺族は 20 万人以上となる。16 万人の避難者が 2000 箇所以上の避難所で、500 キロを超える広範囲に分散し、今も過酷な生活を余儀なくされている。福島原発事故は、被曝不安を地域住民に与え、将来の見通しもままならない。

日本における災害時の「心のケア」は、阪神淡路大震災以降、急速に発展した。トラウマ・ケアの専門家による学会組織も立ち上げられ、今回の震災においても被災者支援のガイドラインを発信し、現地で支援活動が展開され始めている。

一方、今回の震災は、以下の点で、これまでのトラウマ・ケアの枠組みでは対応しきれない特有の状況を生み出している：1) 大規模かつ広範囲、2) 大多数の行方不明者の存在、3) 埋葬方法の多様さ、4) 津波によるトラウマ体験の多様さと深刻さ、5) 被曝不安、6) 大多数の震災弱者の存在、そして 7) 東北地方における専門家の不足。トラウマの複雑化、多様化、重層化、そして階層化は、これまでの実践理論やアプローチ方法の前提を覆す。

本研修企画は、トラウマ・ケアのパイオニアであり、最新の臨床方法を開発し続け、世界を牽引するボストン大学 (Boston University) 医学部精神医学科教授、Boston Trauma Center, Medical Director である Dr. Bessel van der Kolk を招聘し、東日本大震災被災者への心理社会的支援に対する基本的な枠組みと最新の臨床メソッドを提供してもらうことに最大の意義がある。

Dr. van der Kolk は、トラウマからの回復のためには「ひとつの理論や方法だけでは不可能である」という前提に立つ。彼が構築した Attachment Self-Regulation Competency Model (ARC Model) は、身体・心理・社会のホリスティックな視点から多次元の方法論を可能にしたエヴィデンス・ベースト・アプローチ（実証に基づく効果を備えた方法）である。このアプロ

ーチは、筆者も 2011 年に Boston Trauma Center にて研修を受けた。被害者の実情に合わせた柔軟な方法選択と多職種の協働を可能にする方法論の卓越さ、そして ARC 理論による一貫性と安全性を担保した支援プロセスは他に例を見ないことを確認している。

前述したこれまで類を見ない固有の問題に直面する被災者のトラウマ・ケアは、もはや専門家だけで行えるものではない。社会福祉、臨床心理、看護、医学、教育の各分野の協働とボランティアや行政職員の協力なくしては、実現しない。ARC Model を基盤にした Dr. van der Kolk の発信は、多職種の専門家と現地で被災者と共に過ごす多くの関係者を一本の線で結び、互いに共通基盤をもって被災者の尊厳を守り、リスクを回避し、回復への軌道を指し示す貴重な示唆を提供してくれると確信している。特に、災害弱者と呼ばれる子ども、高齢者などへの心のケアの枠組みについて、最新の方法論を与えてくれるだろう。

さらに、今回は臨床ソーシャルワークの立場から Dr. Sumiko T. Hennessy に通訳兼コメンテーターとしてアメリカから参加してもらえることが内定している。Dr. Hennessy は、東南アジア系難民をはじめ、長年トラウマ被害者の心理社会的支援に携わり、Asian Pacific Development Center の Executive Director を務めてきた。Dr. Hennessy は、Dr. van der Kolk から臨床トレーニングを受け、彼のアプローチを最もよく理解するパートナーでもある。両者のコラボレーションは、研修内容を一層深め、日本人にも理解しやすい伝達方法を可能にし、意味ある発信を可能にすることは間違いない。

以上から本企画の意義と内容は次のように示される：

トラウマ・ケアの世界的権威である Dr. van der Kolk の被災者支援者としての参加
Dr. van der Kolk と Dr. Hennessy のコラボレーションによる日本人に理解しやすいワークショップの実現
被災地で開催することによる被災者支援のエンパワーメント
臨床心理士会、日本トラウマティック・ストレス学会、社会福祉士会など対人援助職の関心の高揚と情報の浸透
最新の実践理論とトラウマ・ケア・メソッドの提供
専門家だけでなく、ボランティア・ベースの支援者を巻き込む共通のトラウマ支援の枠組みの提供
EMDR（眼球運動脱感作再処理法）、ボディ・ケア、そして対人関係にいたるホリスティックで柔軟なアプローチの示唆
ARC に基づく子ども被害者に対する具体的なアプローチ方法と留意点
被災者に見られる単回性および複雑性トラウマのアセスメント法と支援の留意点
行方不明者の家族への支援方法
原発被害者への支援方法
ARC から捉えた被災者支援システム構築方法

3. 対象者

社会福祉士、精神保健福祉士、臨床心理士、介護福祉士、精神科医、医師（精神科医以外）、看護師、教師、保育士、ボランティアコーディネーター、行政職員、大学院生、大学生、東京電力関係者、その他被災者支援に携わる人。



Bessel van der Kolk, M.D., is a clinical psychiatrist who has studied the impact and resolution of trauma on children and adults for the past 30 years. His research has ranged from developmental impact of trauma to neuroimaging and from memory processes to the use of neurofeedback, EMDR and theater groups in PTSD. He is professor of psychiatry at Boston University School of Medicine and medical director of the Trauma Center in Boston, where he also serves as Director of the National Center for Child Traumatic Stress Complex Trauma Network. He is past president of the International Society for Traumatic Stress Studies. He has taught at universities and hospitals throughout the world. He is author of over a hundred scientific articles, author of *Psychological Trauma* and co-editor of *Traumatic Stress*.

池埜聡（いけのさとし）

関西学院大学人間福祉学部・人間福祉研究会教授

専門分野：臨床ソーシャルワーク、心的外傷（トラウマ）論

16年前の阪神・淡路大震災の時、発生した負傷者は4万3千8百人。しかし多大な犠牲者と復興の陰に隠れ、社会的な注目が集まらなかった。去年、兵庫県が、震災で負傷し、障害を負った人たち328人を対象に実態調査をしたところ、16年たった今も、苦しみを抱える人が数多くいることが分かってきた。大災害という異常事態の中、生活再建と治療を迫られ、支援も無く孤立してきた実態が浮き彫りとなったのだ。調査は大災害に備えるための教訓として注目が集まり始めている。1 災害や犯罪被害など、私たちは予期せぬ危機

に見舞われます。心的外傷（トラウマ）とは、心理的な負担だけを意味しません。家族ですら思いをわかってもらえない「生きづらさ」を含む、複合的な概念です。私の研究目標は、臨床ソーシャルワークの立場から、トラウマ被害者の理解と支援のあり方を発信することにあります。現在、1）トラウマ被害からの回復力と乳幼児期の愛着形成との関連性、2）在米被爆者問題、3）阪神淡路大震災による震災障害者への支援、そして4）犯罪被害者支援、といったテーマに向き合っています。4年間の精神科クリニックにおける臨床、そして2年間のアメリカ・コロラド州の精神保健機関における東南アジア系難民への支援経験を基盤に、研究をすすめる。2

NHK クローズアップ現代「届かぬ支援 震災負傷者4万人」

2011年1月19日放送 ゲストコメンテーター

http://cgi4.nhk.or.jp/gendai/kiroku/detail.cgi?content_id=2988 上記 1はNHKサイトから転載。 2は、関西学院大学サイトより。

お問合せ先 福島大学坂本恵研究室

090 - 1715 - 5319 （TEL）

sakamoto@ads.fukushima-u.ac.jp

2011 年 5 月 11 日

関係各位

関西学院大学災害復興制度研究所
所長 室崎 益輝

講演・研修会開催のご案内
「東日本大震災被災者へのトラウマ・ケア―ビッセル・ヴァン・デア・コーク博士を迎えて」

時下ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

3 月 11 日に生じた東日本大震災では、津波が多くの人命を奪うとともに、福島原子力発電所事故による放射線被害をもたらす複合災害となり、東北・関東のコミュニティーに甚大な被害をもたらしました。今なお、1 万人を超える行方不明者が存在し、15 万人を超える避難者が過酷な生活に追いやられています。

関西学院大学災害復興制度研究所は、被災者の痛みを全人的な視点でとらえ、長期的な支援を考えていくために、トラウマ・ケアのパイオニアであるビッセル・ヴァン・デア・コーク博士（Bessel van der Kolk, M.D. ポストン大学医学部教授。精神科医）を招聘し、下記のとおり講演およびワークショップ形式の研修を行います。とくに福島原発事故によって、避難を強いられた多くの被災者への対応も含め、博士が提唱する最新の方法論について講演いただき、専門家として、ボランティアとして、そして社会の一員として何をするべきなのか、共に考え、共に学ぶ貴重な機会です。

ぜひご参加いただけますよう、お願い申し上げます。

記

日 時： 2011 年 6 月 1 日(水) 13 時～17 時
会 場： 福島大学行政政策学類 2F 大会議室
〒960-1296 福島県福島市金谷川 1 番地
<http://www.fukushima-u.ac.jp/new/18-koutu/index.html>（交通アクセス）
<http://www.fukushima-u.ac.jp/guidance/campusmap/index.html>
（キャンパスマップ）
講 師： Bessel van der Kolk, M.D.（ポストン大学医学部教授。精神科医）
ポストン・トラウマセンター医療ディレクター。国際トラウマティック・
ストレス学会元会長。著書『サイコロジカル・トラウマ』他、論文多数。
通 訳： Sumiko T. Hennessy, Ph.D.（Director, Crossroads for Social Work, LLC）
コーディネーター： 池 埜 聡 関西学院大学人間福祉学部教授・災害復興制度研究所研究員
対 象： 社会福祉士、臨床心理士、医師、精神保健福祉士、介護福祉士、看護師、
教師、保育士、ボランティアコーディネーター、行政職員、大学院生、大
学生、その他被災者支援に携わる人、被災地支援に関心のある一般の方
参 加 費： 無料
事前申込： 不要
主 催： 関西学院大学
共 催： 福島大学

【お問い合わせ先】

会場に関すること 090 - 1715 - 5319（坂本恵：福島大学行政政策学類）

内容に関すること 0798 - 54 - 6996（関西学院大学災害復興制度研究所）

以 上

東日本大震災被災者へのトラウマ・ケア

ビッセル・ヴァン・デア・コーク博士を迎えて

日時 2011年 **6月1日**(水) 13:00~17:00

場所 福島大学行政政策学類2F大会議室

トラウマ・ケアのパイオニアであり、最新の臨床方法を開発し続け、世界を牽引するボストン大学医学部精神医学科教授、ビッセル・ヴァン・デア・コーク博士を招聘し、東日本大震災被災者へのトラウマ・ケアと長期的支援に関する最新の方法論をご紹介提供いたします。福島原発事故により、長期に避難を強いられている方々に寄り添う際の留意点などについて学ぶ機会となります。ぜひご参加ください。

ビッセル・ヴァン・デア・コーク博士(Bessel van der Kolk, M.D.)

ボストン大学医学部精神科教授。精神科医。ボストンのトラウマ・センター(Trauma Center)医療ディレクター。国際トラウマティック・ストレス学会(International Society for Traumatic Stress Studies: ISTSS)元会長。30年以上にわたって子どもと成人のトラウマ治療に従事。トラウマ被害の長期的影響、ニューロ・フィードバックを用いた記憶処理法、EMDR(眼球動作脱感作再処理法)、劇を用いたPTSD治療など幅広い調査研究を継続している。災害、虐待、犯罪など幅広いトラウマ被害者への支援方法開発、実践の世界的牽引者。



通訳:ヘネシー澄子博士(Sumiko T. Hennessy, Ph.D., LCSW.)

クロスローズ・フォア・ソーシャルワーク(Crossroads for Social Work, LLC.)ディレクター。ニューヨーク大学社会福祉大学院助教授、コロラド州・発達遅滞者支援局のソーシャルワーク部長を歴任後、1980年、インドシナ難民の為、Asian Pacific Development Centerを創立。初代理事長。1990年、コロラド州女性名誉殿堂入り。

コーディネーター:池埜 聡 (関西学院大学人間福祉学部教授・災害復興制度研究所研究員)

主催 関西学院大学災害復興制度研究所

共催 福島大学

■ 参加費無料
■ 申し込み不要

■ 問い合わせ

会場に関すること: 090-1715-5319 (坂本恵:福島大学行政政策学類)

内容に関すること: 0798-54-6996 (関西学院大学災害復興制度研究所)

